

来て、住んで、語って“ひろの”事業

17,500千円

Cグループ

背景

- ・震災を契機として、人口減少・少子高齢化に歯止めがかからない状況。
- ・町全体としてのコミュニティ意識が希薄化している。
- ・移住・定住の促進に向けた取り組みに力を入れているが、自治体間の競争が激しく、町の魅力の掘り起こしと発信に課題。
- ・家族が居住できる住宅が不足している。

目的

- ・町民同士の対話を通じて、コミュニティ意識やシビックプライドの醸成を図る。
- ・企業や町民と連携して、地域資源の掘り起こしを図るとともに、ふるさと納税の返礼品を通じて、町外への発信を行う。
- ・町が空き家の借り受け、貸し出すことで、移住希望者やデュアルライフ希望者に対応する。

事業概要

【1】「来て」プロジェクト (5,000千円)
/ 交流人口増加

内容

ふるさと納税の返礼品に体験型コンテンツを加えて、広野町の特別な体験を寄付者に提供する。

シビックプライドの醸成

地域活性化

【2】「住んで」プロジェクト (10,000千円)
/ 遊休資産(空き家)活用、移住・定住促進

内容

広野町で空き家を一時的に(5年~10年程度)借り受け、電気・水道等の最低限のリノベーションをした上で、移住希望者にお試し移住住宅として転貸する。賃貸期間は最低1週間~最大6カ月で、その後、定住希望のため継続の場合は役場・空き家所有者と相談の上、賃貸・購入も可能とする。

交流人口の増加

【3】「語って」プロジェクト (2,500千円) / シビックプライド醸成、コミュニティデザイン

内容

広野町で活動する100人を起点に人と人とをゆるやかにつなぎ、町のあり方や価値の再発見、多様なコミュニティづくりを目的とした“ひろの100人カイギ”という対話ワークショップを実施する。

事業効果

交流・関係人口の増加
と
シビックプライドの醸成

※シビックプライドとは…地域や自治体に対する誇りや愛着、地域社会貢献意識